

発達支援センター通信

◆野洲市発達支援センター TEL587-0033、FAX587-2004

広報「やす」:令和3年5月号掲載

おどろ きおくりよく 「驚くべき記憶力」

「先生の誕生日はいつ?」これは、私が関わった自閉スペクトラム症の少年の挨拶ことばです。生年月日を伝えると、すぐに「先生は、土曜日に生まれました」と教えてくれます。この少年は、生年月日を聞くと、その人が何曜日に生まれたのか分かってしまうのです。このような人は世界中に何人もいます。なぜこんなことができるのか、説明されていないこともありますが、彼らの記憶力に関係があるようです。

発達障がいの方の記憶力に驚かされることはしばしばあります。「そんなこと、覚えてるの!？」と驚いたことが、どれほどあることでしょう。

スポーツや音楽、電車など特定の分野の知識に詳しい人、時刻表やたくさんの電話番号を覚えている人、字は読めないのに、図鑑が読めるかのよう恐竜や昆虫の名前が言える子どももいます。小さな子どもでも、玩具を元の場所に正確に片付けたり、一度通っただけの道や場所を覚えていたりする様子から、『まさか、覚えているのかな?』と思わされることがあります。

発達障がいの方の中には強い長期記憶を持つ方がいます。一度体験したことや、目にしたことを、まるで写真や映像のように記憶します。一度経験したことを忘れずに繰り返すことができるということを、仕事にいかしている方もいます。見本との違いを正確に見分けたり、同じ製品を組み立てるなど、正確に再現する仕事等です。

その一方で、この記憶力によって困難になることもあります。消したい記憶が消しにくく、たった一度の嫌な記憶を忘れることができないことがあります。また、自分の記憶通りに物事が進むと穏やかに過ごせますが、記憶とは違った展開になったときの不安や戸惑いが、とても大きくなってしまふことがあります。いつもと違うときには、事前に説明してもらうことで不安が少なくなることもあるでしょう。

何十年前の特定の日の曜日が分かったり、電車の名前を詳しく知っていたりしても、「何かの役に立つのか?」と言われてしまうかもしれません。でも、それが会話のきっかけになったり、場をなごませたりすることがあります。また、仲間ができることもあるでしょう。この記憶力に誇りをもっている発達障がいの方も多くおられます。